

大学院生シンポジウム GS01

多角的視点から膜タンパク質機能とその創薬への応用を探究する

Exploring Membrane Protein Functions and These Application to Drug Discovery from a Multilateral Perspective

入江 雅彦¹, 石田 裕丈²

¹東邦大薬, ²静岡県大院薬

イオン輸送体や受容体といった膜タンパク質は生体機能の恒常性の維持に重要であり、その機能異常は疾患の原因ともなる。膜タンパク質が原因と推測され、画期的治療薬の登場が切望されている難治性疾患や希少疾患も多い。近年の研究により新たな膜タンパク質が次々と発見される一方、従来から知られている膜タンパク質の新たな機能や制御機構も解明されつつある。また、同一の膜タンパク質が組織により異なる機能や制御機構を有することも少なくない。そこで本シンポジウムでは、中枢神経系から免疫細胞まで様々な組織での膜タンパク質の生理的意義や薬剤反応性を議論し、膜タンパク質を標的とした新規治療法の可能性を広く考察していく。「膜タンパク質」という同一のバックグラウンドを持ちながらも、異なる組織や方法論でアプローチしている若手基礎研究者が討論することで、聴講者を含めて自身の研究に新たな展望を見出すのみならず、必要な知見や考察力を習得することが期待できるシンポジウムとなるだろう。本シンポジウムが、将来の薬学の発展を担う若手研究者が交流できる絶好の場となることを期待する。